

介護保険事業計画に記載した「自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標」
(令和5年度)報告様式

1 在宅医療・介護の支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

在宅医療と介護連携の推進においては、システム等の構築も重要であるが、それ以前に継続的な「顔の見える関係性づくり」が重要であり、当町では多くの専門職からもそのような声があがっている。そのため、医療・福祉の専門職同士が顔の見える関係性づくりや共通理解、スキルアップを図る必要がある。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】医療福祉多職種連携研修会を開催し、関係作りや共通理解を図る。

【目標】R5年度 2回開催(延べ参加者:120名)

【実績】R5年度 2回開催(参加者:96名)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【今後期待される効果】医療・介護福祉ネットワークの構築、在宅医療と介護連携の推進

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由:関係機関と円滑に調整を行い、目標の通り2回実施できたためBとした。

今後の方針:関係機関との円滑な調整を図り、R6年度においても年2回開催を計画している。

2 地域包括ケアシステムの構築

【目標を設定するに至った現状と課題】

地域ケア会議を通して地域課題を共有し、資源開発や政策形成につなげていくことが求められているが、本町においては、ケアマネジャーが人材不足のため、各ケアマネジャーが業務負担が大きく、担当件数の増加に比例し困難事例を複数例抱える状況となっている。そのため、困難となっている課題や要因を分析し、課題解決のために検討する機会を持つことが必要である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】課題解決型地域ケア会議の開催

【目標】R5年度 2回

【実績】R5年度 1回

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【アウトカム】

課題解決型地域ケア会議を開催し、ケアマネジャーが直面する支援困難な状況を共有し、様々な立場から解決策を検討し、役割分担を決めることができた。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由:R5年度の目標が未達成であり、評価をBとした。

今後の方針:今後においても、検討した事例の報告を行いながら、継続して課題解決策の検討を進めてい

3 認知症対策の強化

【目標を設定するに至った現状と課題】

認知症高齢者の増加が見込まれる中で認知症に関する相談や支援件数についても増加しており、認知症に対し様々な側面から取り組みを実施している。このような現状の中で認知症高齢者等が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、特に地域や周囲の理解や支えが必要不可欠であり、認知症サポーターの養成の促進が求められている。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】認知症サポーター養成講座を実施しサポーター養成促進する。

【目標】・認知症サポーター養成講座 R5年度 3回開催

・サポーター養成者数 R5年度 90人

【実績】・認知症サポーター養成講座 R5年度 5回開催

・サポーター養成者数 R5年度 130人

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【今後期待される効果】地域における認知症理解の促進とともにキャラバンメイトやボランティアの活用を図ることができる。また、認知症予防や早期発見治療、正しい理解と対応についてお互いに支えあう地域づくりが進んでいる。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 B

評価理由: 養成講座を実施し目標を達成したためBとした。

今後の方針: サポーター数を増やすことで、民間主導のカフェ活動等を開催できるように支援したい。

4 高齢者の能力活用と就労支援

【目標を設定するに至った現状と課題】

高齢者がこれまでに得た技能や経験を活かしたボランティア活動、就労的活動を通じて、地域や社会を構成する一員として社会貢献できる場の提供が必要である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】シルバー人材センターの支援を通して、高齢者のライフスタイルに合わせた雇用・就業の機械の提供に努める。

【目標】 シルバー人材センター会員数184名

【実績】 シルバー人材センター会員数145名

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

シルバー人材センターの支援により、高齢者一人一人が活躍できる社会の構築

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価

評価理由:

今後の方針: 今後の方針: 高齢者にとって働くことは、健康と生きがいを持ち、閉じこもり防止や孤独感の解消として有効であるため、今後もシルバー人材センターの活性化に向けて、事業拡大を支援していきます。

5 人生百年時代を見据えた健康づくり

【目標を設定するに至った現状と課題】

介護予防ボランティアの育成・支援を行うことにより、通いの場が参加者及びボランティア自身の閉じこもり防止や生きがいづくりとなっている。しかし、育成してもボランティアが減少傾向であり、担い手側の確保が困難である。

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

- ・介護予防のための通いの場への参加促進。
- ・介護予防のための通いの場であるシルバーリハビリ体操教室への参加促進と体操指導士の活動支援
- ・認知症予防体操(フリフリグッパ―体操)を中心とした地区運動集会への参加促進とボランティアの活動支援

【目標】

- ・住民交流通いの場参加者延人数:R5年度 9,000人
- ・シルバーリハビリ体操参加者数(R6:15,500人)
- ・フリフリグッパ―体操参加者数(R6:2,000人)

【実績】

- ・住民交流通いの場参加者延人数:R6.3月末現在 9,364人
- ・シルバーリハビリ体操参加者数(年間延べ参加人数 R5:9,855人)
- ・フリフリグッパ―体操参加者数(年間延べ参加人数 R5:1,427人)

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【アウトカム】

- ・ボランティア自身の閉じこもりや生きがいになっており、地域における住民主体の活動の推進につながっている。
- ・要介護認定率が低率で推移。

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価 | B

評価理由:

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者の減少はあるものの、住民交流通いの場参加者延人数、シルバーリハビリ体操・フリフリグッパ―地区運動集会と共に目標を概ね達成しているため、B評価とした。新型コロナウイルス感染症対策として、会場の環境整備、参加者の健康管理など、きめ細やかな対策をし、安心・安全を第一として、ボランティアの方と協力して実施した。体操を普及するボランティア(シルバーリハビリ体操指導士)の養成を行った。

今後の方針:

- ・通いの場参加者向けに介護予防に関する講座を開催するなど、参加者やボランティア自身が介護予防に関する関心を持つことを促し、住民主体の介護予防につながるようにしていく。
- ・認知症予防対策として、参加者がさらに健康的な生活が送れるよう、ボランティアの方と協力して継続的な運営を行う。

6 その他

【目標を設定するに至った現状と課題】

【設定した主な取組及び目標・実績】 ※ 可能な限り数値目標をあわせて記載してください。

【取組】

【目標】

【実績】

【取組により得られた効果(アウトカム)または今後期待される効果】

【自己評価及び今後の方針】※5段階で評価(S・A・B・C・D)

自己評価

評価理由:

今後の方針: